

宝石の世界 その14

<パール> その1

パールは真珠貝が生み出す有機物です。貝は砂などの異物が体内に入ると体外へ排除しますが、異物が残留すること。まれに貝殻を作る外套膜という組織と一緒に入り込み、異物を包み込んで貝殻と同じものを生成することあります。これが真珠と呼ばれています。自然にできたものを天然真珠、貝殻などの核と一緒に人工的に外套膜を挿入するものが養殖真珠と呼ばれています。多くの貝は真珠を生み出す可能性があります。シジミから真珠が出てきた!という報告もあります。しかし美しい真珠層を生み出す貝は多くはありません。ウグイスガイ科に属するアコヤガイ、シロチョウガイ、クロチョウガイ、イシガイ科に属するイケチョウガイ、ミミガイ科に属するアワビ貝などが美しい真珠層を持ち、養殖にも用いられています。



主な養殖真珠の種類

アコヤ

母貝のアコヤ貝は温かく比較的浅い海に棲む貝です。貝から取り出されたばかりは黄色やグレーみがあることが多く前処理と呼ばれる漂白、下地処理、調色(ピンキング)などが一般的に行われます。



シロチョウ

南洋珠とも呼ばれる真珠を生み出すこの貝はインドネシアやオーストラリアの温かい海に棲みます。縁が白いものと黄色いものが存在し、黄色いものは「ゴールデンリップ」と呼ばれ美しいゴールド系の真珠を産出します。



クロチョウ

母貝となるクロチョウ貝は石垣島や宮古島世界的にはタヒチなどに多く生息しています。養殖はアコヤ貝の養殖で有名な御木本真珠により沖縄での養殖試験の後、タヒチで商業的に確立しました。高品質のものはピーコックグリーンと呼ばれる黒い地色の上に緑とピンクの輝きが美しい珠です。

